

2011年11月30日

各 位

Ｊ×日鉱日石金属株式会社
三井金属鉱業株式会社
パンパシフィック・カッパー株式会社
三井物産株式会社

チリ国「カセロネス銅・モリブデン鉱床開発プロジェクト」の開発投資額について

Ｊ×日鉱日石金属株式会社（本社：東京都千代田区大手町二丁目，社長：岡田昌徳）および三井金属鉱業株式会社（本社：東京都品川区大崎一丁目，社長：仙田貞雄）の共同出資による銅事業会社パンパシフィック・カッパー株式会社（本社：東京都千代田区大手町二丁目，社長：足立吉正，以下「PPC」）ならびに三井物産株式会社（本社：東京都千代田区大手町一丁目，社長：飯島彰己，以下「三井物産」）は，両社が共同で推進しているチリ国「カセロネス銅・モリブデン鉱床開発プロジェクト」（以下「本プロジェクト」）について，最近の銅価上昇に伴う対米ドルでのチリ・ペソ高，資機材・工事価格の上昇，詳細設計に基づく工事計画の一部変更等を勘案して投資額の見直しを行いました。この結果，本プロジェクトの開発投資額（生産設備等初期投資額）は，従来計画の約20億米ドルから約30億米ドルに増加する見通しとなりました。なお，銅価も上昇していることから本プロジェクトは依然として十分な収益性を有するものと考えております。

上記に伴う増加資金については，必要に応じプロジェクト会社であるミネラ・ルミナ・カッパー・チリ社（本社：チリ国サンチャゴ，出資比率はPPC75%，三井物産25%）に対し，各株主から追加拠出する予定です。

なお，本プロジェクトの建設は概ね順調に推移しており，現在までに詳細設計，キャンプ設置，アクセス道路敷設をほぼ完了するとともに，各施設の基礎工事等の建設工事が本格化しつつあるなど，予定どおり2013年中の商業生産開始を見込んでおります。

PPCおよび三井物産は，引き続き共同で本プロジェクトの円滑な推進を図ってまいります。

以 上

「添付資料」

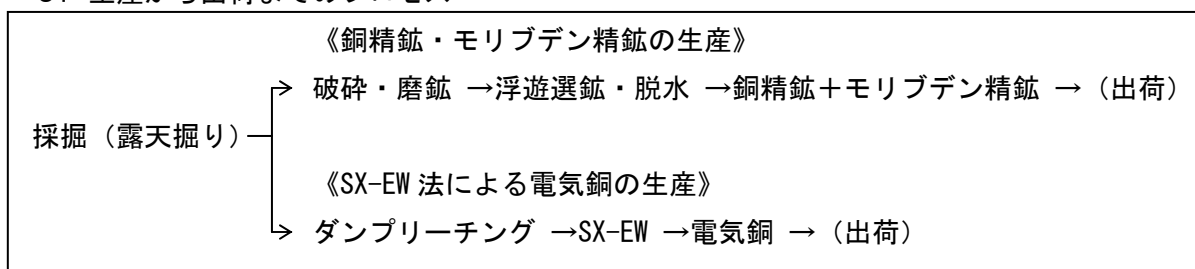
チリ国「カセロネス銅・モリブデン鉱床開発プロジェクト」について

(添付資料)

チリ国「カセロネス銅・モリブデン鉱床開発プロジェクト」について

1. 建設期間： 2010年～2013年
2. 操業開始： ・SX-EW法による電気銅生産 2013年1月
・銅精鉱・モリブデン精鉱生産 2013年9月
3. 生産期間： 2013年～2040年（28年間）
4. 生産方法： 銅 「SX-EW法による電気銅生産」と「精鉱生産」の併用
モリブデン 精鉱生産

5. 生産から出荷までのプロセス



(注)

- ・ダンブリーチング：鉱石を粉碎せず堆積させ、希硫酸を散布し、銅を浸出（リーチング）する方式。
- ・SX-EW法：溶媒抽出電解採取法。銅の浸出液から銅イオンを選択的に回収（溶媒抽出）し、この硫酸銅液から電解採取により電気銅を生産する。現在、世界の鉱山銅生産量の約20%を占める。

6. 採掘対象鉱量

鉱石	鉱量 (億トン)	銅品位 (%)	モリブデン品位 (ppm)
銅精鉱・モリブデン精鉱生産対象 (一次硫化銅鉱および二次硫化銅鉱)	10.5	0.34	126
SX-EW法による電気銅生産対象 (酸化銅鉱および低品位二次硫化銅鉱)	3.0	0.25	—

(注)

- ・一次硫化銅鉱：鉱床形成の初めに濃集した銅鉱石。黄銅鉱など。
- ・二次硫化銅鉱：硫化物の酸化によって生じた硫酸が、酸素の乏しい状態で再び一次硫化銅と反応し、新たに濃集形成した銅鉱石。輝銅鉱など。

- ・酸化銅鉱：一次硫化銅が地表付近で雨水や風化により、銅分が溶解し、酸化されたもの。
胆ばん、孔雀石など。

7. 鉱石処理量： 約 10.3 万トン/日

8. 生産量（見込み）：

（当初 10 年間平均）

銅： 銅精鉱（銅量）	約 15 万トン/年
電気銅	約 3 万トン/年
計	約 18 万トン/年
モリブデン	約 3 千トン/年

（28 年平均）

銅： 銅精鉱（銅量）	約 11 万トン/年（3,141 千トン/28 年）
電気銅	約 1 万トン/年（406 千トン/28 年）
計	約 12 万トン/年（総生産銅量 3,547 千トン）
モリブデン：	約 3 千トン/年（総生産モリブデン量 約 8 万 7 千トン）

9. 開発投資額（概算）： 約 30 億米ドル（生産設備等初期投資額）

10. カセロネス銅・モリブデン鉱床の所在地

チリ第三州の州都コピアポ（Copiapo）から南東 162km, アルゼンチンとの国境から 15km に所在。鉱床付近の標高は 4,200m~4,600m。

